

食料の未来と環境・世界

単元について

1 単元名 「食料の未来と環境・世界」(環境と農業、農村のかかわり) 2時間構成

● 本単元の位置づけ方

公民的分野「現代日本の歩みとわたしたちの生活」が最適である。なお、新学習指導要領で行う場合、「よりよい社会を目指して」に位置づけるとよい。できれば前の単元2も取り上げて、食料の輸入について総合的に考察させたい。

2 単元の特徴

- 前の単元が食料輸入を継続できるかという視点で考察しているのに対し、本単元では食料輸入が引き起こす問題として、環境問題、南北問題などの現代的な諸課題とかかわらせて考察させる。
- グループ学習を取り入れて、さまざまな立場に立った参加型学習を取り入れて、将来のあり方についての提言を考える。異なる立場から考察した他のグループの発表を聞いて、多面的に考察するように構成し、自分なりの考えをもてるようにする。

3 単元の目標・ねらい

- 日本の食料輸入を、環境問題や南北問題、大量消費の視点から見直させる。
- 食料を確保していくためにはどうしたらよいか、日本の農業、農村のあり方や自分たちの食生活のあり方など、多方面に考察し、見直させる。

4 評価の観点

- 日本の食料輸入を、環境問題、南北問題、大量消費の視点から考察し、自分や家庭の消費生活を積極的に見直したか。
- 食料の未来を確かなものにするための方策について、さまざまな立場から考察し、自分なりの考えをもてるようになったか。

5 授業を展開するにあたって

● DVDの視聴について

第1時では、飼料と食料廃棄の部分、第2時では第2部の展開の後半部分を視聴する。

● グループ構成について

グループの生徒数は4人が望ましい。学級生徒数によりグループ数を決める。第2時で、立場の内容や数は、各学校の実態に応じて調整する。

● 本単元の視点

環境への影響: フード・マイレージ、バーチャルウォーターのほか、日本向けエビ養殖によるマングローブの破壊、バナナやカカオ豆の生産での劣悪な労働実態に注目させたい。

飢餓と飽食: 世界で生産されている穀物を全て食用に回せば世界の人々を養えるという。

食生活の見直し: 「もったいない」という言葉、地産地消運動などに注目したい。

指導案

第1時 食料の輸入と環境問題・南北問題

進行	学習内容	留意点等	資料
導入 10分	1 日本が食料を大量に買い付けていることを読み取り、その規模の大きさに驚く。	● 日本が今後も、このように大量に輸入できるか、してよいのかという課題意識を持たせる。	● 資料13
展開1 20分	2 「日本が海外から大量に食料を買うことに、問題はないのだろうか」 2グループに分かれて、問題点を考える。 (環境への影響、飢餓と飽食)	● 資料の読み取りにとどめず、何が問題か、考えさせる。 ● 水資源や地球環境に悪影響を与えていること、途上国を中心に約9.6億人の栄養不足人口がいる中で、日本が他国から食料を大量に輸入していること、食料廃棄物が多いことなどをおさえる。	● 資料15 ● 資料2、4
展開2 10分	3 各グループで調べたことを発表し合う。発表を聞いて、その要点をつかむ。	● 各グループで使った資料を見ながら、発表を聞かせる。	
まとめ 5分	4 食料輸入の課題を整理する。	● 単元2での学習成果と併せて整理したい。	● DVD 第1部

第2時 食料の未来を確かなものにするために

進行	学習内容	留意点等	資料
導入 10分	1 今の食生活を保つためには、国内生産だけでは限界があることをとらえる。	● 食料をすべて自給することの難しさをふまえて、理想論ではなく、現実的に考えられるようにする。	● 資料9 ● 資料17
展開1 20分	2 「食料の未来を確かなものにするために、わたしたちはどうしたらよいのだろうか」 これまでの学習を基にして、また、今日の食について、DVDを見て、各個人で考える。 3 グループで各自の考えを発表し合う。グループ別に、消費者、農家、食品関係事業者、政府、国際組織などの立場から提言を考える。	● 生徒の書いている内容を見て、必要に応じて、個人個人の対策、農業のあり方、政策について等、多面的に考えるように促す。 ● どの立場から考えるかは、各生徒に選択させるのが望ましい。	● DVD 第2部：今日の食の特色
展開2 10分	4 各グループの提言を発表する。各役割の発表後、どれが重要か意見を出し合う。	● 食生活の洋風化、農村の活性化についても考えさせるようにする。 ● 日本農業の再生について、国土保全、環境保全などの農業・農村の多面的機能に着目する。(日本学術会議の試算では、洪水防止機能3兆4988億円、土壌崩壊防止機能4782億円、保健休養・やすらぎ機能2兆3758億円の貨幣価値がある。) ● 地産地消などの新しい動きについて、適宜紹介するとよい。	
まとめ 10分	5 すべてのグループの発表などをふまえて、自分の意見をまとめる。	● 自分の食生活の見直し、日本の農業のあり方に言及させる。	

ワークシート

「食料の未来と環境・世界」ワークシート1

年 組 番 氏名

1 資料13から、日本の穀物輸入量についてわかることをまとめよう！

2 日本が海外から大量に食料を買うことは問題ないのだろうか、話し合ってみよう！

自分たちの班で話し合って：

他の班の発表を聞いて：

3 まとめ（食料を輸入することの問題点をまとめよう）

「食料の未来と環境・世界」ワークシート2

年 組 番 氏名

1 資料9と資料17から、日本の食料生産の問題点についてわかることをまとめよう！

2 今後も食料を確保していくためにはどうしたらよいか、話し合ってみよう！

消費者の立場から：

農家の立場から：

政府の立場から：

()の立場から：

()の立場から：

()の立場から：

3 まとめ（食料を確保するための自分の考えを、もう一度まとめよう）